○ 本校の概要

校内研究は、「授業に生かせる評価の工夫 ~深い学びを通して~ 」という研究主題のもとに、教科化された「特別の教科 道徳」の授業改善と評価の研究を行う。そして、道徳科を核とし、全ての教科の授業改善をPDCAサイクル化して実施する。通常学級と特別支援教室及び通級指導学級担当教員がお互いの授業を見合うことにより、それぞれの専門性を学ぶとともに、多面的な視点による児童理解に繋げる。また、児童の自己肯定感を高めることを学校経営の根幹に位置付け、友達や先生など他者とお互いのよさを認め合う活動を充実させることにより、自らの成長を実感できるようにする。昨年度に引き続き、仮設校舎での学校生活となるが、中学校や近隣の小学校をはじめ地域の関係機関と連携を図ることにより、安全で快適な教育環境を整えるとともに、児童が十分な運動量を確保するための学習環境を保障する。

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
		学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人	3 8 1 %	4:「補習をしたり宿題を出したりするなど、具体的な取組を実施している」と		「先生たちは、学力向上のために補習をしたり宿題を出したりしています。」について、児童の回答は	・一人一人の学習を考えてくれているようでよい。
学力向上		ひとりの学習のつまずきや学習方法につい	2:60%以上で行った。	-アンケートで回答した児童が85%以 上「子供たちの基礎的・基本的な学 カの定着に取り組んでいる」とアン		91.9%であった。 保護者の「先生は、基礎的・基本的な学力の定着に	・子供目線で行われているのでよい。・新しく道徳が教科化されて教員も大変だと思うが、子供にわか
		<u> </u>	4:学期に2~3回知らせた。	ケートで回答した保護者が85%以上		取り組んでいる。」アンケート結果は95.7%と、昨年度の87.7%をはるかに超えた。また、児童も「先生た	りやすく教えてほしい。
			3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。	3: 「補習をしたり宿題を出したりす るなど、具体的な取組を実施している」			・2月に外国からの編入があった。今後、増えていくことが予想でれるので、それを踏まえた授業を期待したい。また、外国人とのコミュニケーションも日々の中で覚えられるとよい。
	ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させ		これを見す。はは、これでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	とアンケートで回答した児童が70%以 上「子供たちの基礎的・基本的な学力		学習指導講師の配置は限られているため、土曜補	学習の進捗状況に合わせてのフォローを含めて児童のことを
		学習指導講師等による算数·数学·英語の 補習を実施する。	3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。	の定着に取り組んでいる」とアンケート で回答した保護者が70%以上		施し、ほぼマンツーマンで指導した結果学力の底上	ちんと見ていただいている学校であると認識している。
			1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2: 「補習をしたり宿題を出したりす	4	げにつながった。 漢字検定では、9月の結果を国語部で分析し、手だ	・学校側は常に努力していると感じているが、授業を受ける子供の姿勢が少し気になる子もいる。家庭との連携が大切だと常に思う。
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国 の方々とのコミュニケーション能力の育成等	3:80%以上が回答した。	るなど、具体的な取組を実施している」とアンケートで回答した児童が60%以		てを提案した。学校全体で2月の漢字検定に向けて取り組んだ結果、2回とも合格率が8割を超えた。	
		で図っている。	1:60%未満であった。	上「子供たちの基礎的・基本的な学力 の定着に取り組んでいる」とアンケート で回答した保護者が60%以上		道徳の教科化初年度に校内研究を実施し、担任全 員が研究授業に取り組んだ。評価を考えていくうち	
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。			に、児童の学習活動、教師の発問、ワークシートの工夫など授業改善につながった。	
		文本以音を進入してい文本に上がす。		1: 「補習をしたり宿題を出したりするなど、具体的な取組を実施している」とアンケートで回答した児童が60%未			
		道徳科の授業について、自分の考えをもち、	4:対象となる全学級で行った。	満「子供たちの基礎的・基本的な学力 の定着に取り組んでいる」とアンケート			
		1.1 -1.1 -124 - A -2 -2 1.1 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -2 -	2:70%以上で行った。 1:70%未満であった。	で回答した保護者が60%未満			
		小中二世に 2	4:全教員が行った。	4:「自分にはよいところがある」とア ンケートで回答した児童が80%以上		5.6年のアンケートによると、「わたしは、自分や友達 のことを大切にしています」と答えたのは88.7%(5年	・目的をもってできるよう配慮されている。
		道の充宝により 社会のルールや学校のき	2:60%以上の教員が行った。	「学校は、保護者や地域からの連絡や相談したことについて適切に対応して		81.5%、6年94.1%)であった。昨年度が80.0%(5年72.9%、6年86.5%)であったため、大きく上がったと言	・自己肯定感は大事だと思う。この感覚をもっていない30代が多い。無駄な競争は必要ないが、ある程度は必要と考える。
		>++ /+ +/L -+- 1/L >/+ +/L + +- =++ +	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	いる」とアンケートで回答した保護者が が80%以上		える。大半の児童は、自己肯定感が高いが、課題 の見られる児童には今後も個別に対応し、学校内 で認められる機会を設定していく。	・児童数が多くはない点もあると思うが、学年を越えると児童同 士がとても仲のよいのが特徴の学校だと思う。いじめ的なもの
		国 都及7人以の登料を活用した授業等を行	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3:「自分にはよいところがある」とア		仮設校舎で、他学年との教室が向かいにあり、通	ないように見えるが、人が集まる場所には少なからず軋轢はある。大人だろうが子供だろうがそこは変わらないと思う。「うちの
			1: 夫他しなかつに。	ンケートで回答した児童が70%以上 「学校は、保護者や地域からの連絡や 相談したことについて適切に対応して		級指導学級や特別支援教室が近くなり、以前よりも 教員間の情報共有もでき、その分、児童のよさや指 導法についての共有ができた。その結果、児童へ	学校にいじめはない」ものとは思わずに、火種の段階で見守っいただきたい。
豊		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結 果よりストレス症状のみられる児童・生徒に	3:80%以上の教員が回答した。	いる」とアンケートで回答した保護者が 70%以上		の支援が、以前より早く行えたことがよかった。 の支援が、以前より早く行えたことがよかった。	・のびのびと子供の個性を見てご指導いただいていると思う。丿 数が少ないということもメリットとして生かされている気がする。
かな			2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			「学校は、保護者や地域からの連絡や相談したことについて適切に対応している」保護者の結果は	・スクールカウンセラーとの連携がうまくいっており、大変子供の
心を育		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ	13.8110017 E (1120 E 1110 C) 12	2:「自分にはよいところがある」とアンケートで回答した児童が60%以上「学校は、保護者や地域からの連絡や	4	91.9%と高い結果が得られた。教員が、学年や管理職とも連携しながら組織的かつ丁寧に対応していることが評価されたと思われる。	ために考えていて、子供たちも明るく育っていると思う。 ・一人一人の個性が見られて、自由な発想が育てられていると
		の未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2.0070次上07款員が固日07℃	相談したことについて適切に対応している」とアンケートで回答した保護者が		年間3回のいじめアンケートや平成29年度から実施	・一人一人の個性が見られて、自由な光泡が育てられていると う。
			4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。	60%以上		しているスクールカウンセラーによる5年と3年の全員面接を計画的に実施した。日頃から児童の様子について教員間、SCと教員間、SRやことば、管理	
			3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。	1:「自分にはよいところがある」とア		職との情報交換が密にできているため、いじめ問題 等の未然防止、早期発見・早期対応に努めることが	
			1: 必要な事業に対してはどんと会議を美施せり、組織	ンケートで回答した児童が60%未満「学校は、保護者や地域からの連絡や		できた。	
			4:全教員が毎週実施した。	相談したことについて適切に対応して			
			3:90%の教員が毎週実施した。 2:70%の教員が毎週実施した。	60%未満			
		新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体	1:70%未満であった。 4:全教員で行った。	4:「体力向上に努力した」とアンケー			・オリンピック・パラリンピック教育と結び付けて、体を動かす楽
	子と動せ気る力するのを意の合うとのをですのをですがある。	計画を作成し、計画に基づいた体育指導や	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	トで回答した児童が80%以上		72.4%(5年63.8%、6年78.4%)と、昨年度よりも下回った。	
		を実践する。	1:60%未満であった。			プレハブ校舎や狭い校庭、屋上無し、体育館無しの学校だったたため、中学校などを借り、計画的に体	・校舎改築中のため、校庭が小さい中で工夫をいろいろとしてしただき感謝してりる。新しい校庭が楽しみである。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通 して 児童・生徒や保護者に対し 望ましい	3.80%以上の教員で行うた。	3:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が70%以上		育、外遊びの工夫をした。安全上休み時間は、担任が児童とともに過ごしており、外遊びなどの推奨を	・校庭が狭かったりとデメリットを先生方でうまくカバーしていた。 感じる。休み時間など外に出ないで過ごすこともあるようなので
<i>/</i>			2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。			行った。また、中学校区(志茂田中、仲六郷小、西六郷小、志茂田小)全体で体育の授業を通じて、自ら身体を動かすことの楽しさを知り、体力の向上を	天気のよい日は外に出してほしい。 ・体幹トレーニングを続けてほしい。孫が副校長先生と校庭で
体力向上		給食指導及び教科等における指導を通し	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。			図ることに取り組んだ。	サッカーをするのが楽しいと言っていた。
			2:60%以上の教員で行った。	2:「体力向上に努力した」とアンケートで回答した児童が60%以上	3	体育朝会では、限られた場所や時間であっても、体 幹が鍛えられるコオーディショントレーニングを実施 し、各学級の体育の時間に取り入れた。	・一人一人の体力を向上させるのは、とても大変なことだと思う
			4:全教員で行った。			「学校は体力向上に取り組んでいる」と回答した保	
			2:60%以上の教員で行った。	1:「体力向上に努力した」とアンケー		護者は90.1%であり、限られたスペースであっても 比較的肯定的に評価いただいている。	
			4: 主子級で取り組んだ。	トで回答した児童が60%未満			
		コオーディネーショントレーニングを取り入れ て体力向上に取り組んでいる。	3:80%以上で取り組んだ。 2:60%以上で取り組んだ。				
			1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4:「わかりやすい授業に努め、学習		「先生たちは、わかりやすい授業に努め、学習指導	・授業の改善に努めていると思う。
	教力の師配校制取習上すの上備とででは、おりのは、ないのでははは、のはいいでは、のはいいでは、のはののでは、のは、ののでは、ののでは	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	指導を工夫している」と回答した児童 が85%以上		を工夫しています。」と答えた児童は、84.7%(5年 80%、6年88%)で、昨年度の91%(5年87.5%、6年 94.2%)を下回った。	・落ちこぼれのないよう、配慮されている。
			1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。			授業改善プランを作成する。作成して終わりではな	・外国人の子供が増えた時に、偏見のないようにしてほしい。
		王仕教調か助言・文援を行う校内研修等を	3:学期に1回(年間3回)以上行った。	3:「わかりやすい授業に努め、学習		く、例えば週案に貼り月末に振り返ったり、学力向 上委員会等で話し合ったりしてPDCAサイクル化す ることにより改善し続ける体制を整備する。	・授業のコマ数の確保など苦労が多い中で、いろいろと工夫をしていただいているという印象である。
		夫心しOTを北天でせる。	「美胞しなかつに。	指導を工夫している」と回答した児童 が70%以上		教員が、他の教員の授業を見合い、授業の改善に	・毎年、めまぐるしく変わる状況の中で、その場の状況に応じて 機応変に対応していると感じている。いつも無理をきいていたた
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。			努めていること、研修での学びを授業に活かした。 特に、校内研究の教科である道徳については、全	き感謝している。
月四		自身の授業改善に生かす。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。			学級担任が指導案を作成し、授業を公開した。 実物投影機、電子黒板、タブレットPC等を積極的に	
			4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	2:「わかりやすい授業に努め、学習 指導を工夫している」と回答した児童	3	用いて様々なものに興味を持たせ、実物を見ることにより授業を一層わかりやすくする努力をした。引	
向 上		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、IC T機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。	- が60%以上		き続き、今後もわかりやすい授業づくりに努める。 学校特別支援員、生活指導支援員、体育指導補助	
			1:60%未満であった。			員、理科支援員、登校支援員など区の人的支援を 最大限活用した。	
		校内委員会等を確実に実施し、学校におけ	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。				
		る特別支援教育を推進する。	2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	1:「わかりやすい授業に努め、学習 指導を工夫している」と回答した児童 が60%未満			
		年間3回以上、校内で授業観察を行い、成	4:全教員が行った。 3:80%以上で取り組んだ。	75 00 /0 / (/ Ш)			
		果と課題について議論する。	2:60%以上で取り組んだ。 1:60%未満であった。				
	学校・家果たするとの を が が り り り り り り り り り り り り り り り り り	我自己徐 于伐性百刀如 于伐叶仙寺02条	4:月1回以上更新した。	4:「地域の人材や環境を積極的に 活用し、地域と連携した教育活動を展		たと保護者が回答しており、昨年度の97%と同様に	・家庭と学校の連携をよくしていると思う。地域と学校のコミュニ ケーションができている。
		ページ等で公開及び更新することにより、積	2:学期1回以上更新した。	開している」と回答した保護者が90% 以上		大変高い。	・今後も、当事者意識とスピード感を大事にしてほしい。
家		極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒	1: 更新しなかった。 4: 毎回情報を提供した。			今年度は、地域の方々による授業のほか、保育園との連携も昨年度以上に多く行うことができた。	・一町会、一小学校という特色のある志茂田小学校のよい意味 での「小ささ」を活かした学校づくりをされている。学校・町会・
廷		の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正	2. 女士は唐起太坦州したかった	3:「地域の人材や環境を積極的に 活用し、地域と連携した教育活動を展 開している」と回答した保護者が75%		志茂田小版家庭学習のすすめを配布し児童に働き	PTAが密に連携して今後も共に取り組んでいきたい。
地		は評価を受けるよう劣める。	1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。	- 開している」と凹合した保護者か / 5% _ 以上		かけた。家庭との連携を図り、家庭学習を定着させたい。	・こちらに関していつもご協力いただき、話を聞いていただけて、 かっている。次年度も新校舎でルール決める等あるかと思うが 益々協力して行ければと思う。
の		域 カを生か た特色ある数台 活動を主席す	3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。	2:「地域の人材や環境を積極的に		今年度は、学校のホームページに給食や児童の様子について、こまめに更新することができた。「学校	mr マ pmyフェン ヘコエノタいみ Ciby Jo
		්	1:実施しなかった。	活用し、地域と連携した教育活動を展開している」と回答した保護者が60%		は、学校便りや、ホームページ、学校公開日などを 通して、情報を伝えている。」保護者アンケート結果 では、97.6%と高い。今年度、ほぼ毎日更新するこ	
		11、作め 仮設校舎での数台法則を分手させ	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	以上		では、97.6%と高い。今年度、はは毎日更新することで情報発信できたと考える。	
		ている。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	1:「地域の人材や環境を積極的に		一町会一学校のよさを生かし、町会自転車教室、町会はねつき大会、ふれあい給食、など地域と連	
H	, 0		4: 主教員が打つた。	活用し、地域と連携した教育活動を展開している」と回答した保護者が60%		携している。	
H		保護者と連携し、年間3回以上「早寝・早起	3:90%以上の教員が行った。	未満			

O「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。